

武豊春の音楽祭の取り組み

竹本 義明

(武豊町民会館 館長)

はじめに

武豊町が、住民主役の文化施設建設を計画し建設に着工したのが2002年、2004年9月に武豊町民会館(ゆめたろうプラザ)が開館して7年である。会館を設置する数年前から地域の住民が会館建設の思いを語り、開館後組織を存続させて活動し「特定非営利活動法人武豊文化創造協会(NPO たけとよ)」を立ち上げ、会館の管理・運営に従事してきた。

現在、全国に2,200の公立文化施設・ホールがあるが、約4割の施設において自主事業が年間平均5本以下となっており、その運営が停滞している。さらに、2003年9月の地方自治法の一部改正で公立文化施設に導入された「指定管理者制度」により、経費削減を求める施設管理に重点が置かれ、各施設で本来の設立目的である事業を実施する余力がなく、貸館主体の運営となっている。

そのような中、文化庁が2010年12月から「劇場・音楽堂の制度的な在り方に関する検討会(仮称劇場法)」を設置し審議が行なわれた。同法は、国民が演劇・音楽・伝統芸能などの実演芸術に鑑賞、参加する機会の拡大を図るため、その拠点となる劇場・音楽堂を国と地方が協働で整備することを求めている。

重点的に取り組むべき施策としては、法的基盤のない劇場・音楽堂等が優れた文化芸術の創造・発信等に係る機能を十分に発揮できるようにするため、その法的基盤の整備について早急に具体的な検討を進めることである。

本館としては、劇場法と地域公共ホールへの影響について注視しつつ、公共施設であるホール評価のあり方、ホールにおけるインターンシップ、文化芸術活動に対する効果的な支援等を進める必要があると考えている。

武豊町民会館の運営

本館は、武豊町の直営施設であるが、会館の建設計画段階から民間のNPO組織が会館の管理・運営に携わってきた。開館当初から運営にあたる町職員は、舞台関係に2名の専門職員が置かれ、職員は必要最小限の人員配置で運営されたため、会館施設管理業務だけで手一杯であった。そこで、事務所が行う施設貸出しの窓口業務を中心にNPOが対応することとなり、利用者から概ね高い評価を得ている。

地域の文化施設・ホールとしての鑑賞事業の他、人材育成や交流・参加事業に力を入れており、特に「芸術と科学のハーモニー事業」は、ゆめホテル事業、フレンドシップ事業、映像メディア事業、ロボット製作教室事業、モデルロケット製作教室&打ち上げ大会、体験教室ならびに作品展覧会、レクチャー講座、情報発信事業など、少ないスタッフで数多くの魅力的な事業を展開している。

公共ホールの約半数が指定管理で運営されている中、武豊町民会館は管理について直営を維持しつつ、事業運営と窓口業務を民間であるNPOに委託することで、会館の管理・運営が望ましい形で行われている。また、この数年は、鑑賞事業の半数以上をNPOに事業委託し、地域のニーズに応えた多様な事業が展開されている。

武豊町民会館の事業

会館の事業運営は、町直営事業とNPO委託事業、そして町民を組織しての実行委員会事業の3つの分類で事業が行われ、それぞれ特色ある事業が定着してきている。全国の地域文化ホールで継続性を持った事業の実施が少ない中、武豊町民会館は鑑賞事業、人材育成事業、文化発信事業、そして、交流・参加事業という4つのカテゴリで毎年7分野27ジャンルの事業を実施している。

有料鑑賞事業は、優れた鑑賞事業として、音楽系、舞踊系、演劇系と古典芸能、そして青少年文化の5ジャンルをバランスよく実施している。音楽系では、2年ごとに「武豊春の音楽祭」を実施し、内容はクラシックとジャズをコンセプトとするものであり、現在まで継続して実施されている。回を重ねるごとに進化し、会館の存立意義、実演家の要望に応えた事業として定着している。この分野には体験・参加鑑賞事業もあり、音楽系の他美術系、芸術と科学系で多くの事業を実施している。人材育成事業では、低料金・無料の講座系分野で、表現系、教養系そしてスタッフ系事業を展開している。文化発信分野では、地域からの事業発信に力を入れ、2つの創造団体（町民劇団 TAKE TO YOU、Swing Band TAKETOYO）の支援に加え、季刊ゆめプラだよりを発行している。交流&住民参加では、地域との交流に力を入れ、地域住民が多面的な運営参加が出来るように配慮している。

このような活動は「第4次武豊町総合計画（1998～2010）」に基づく「文化創造プラン」があることにより、充実した会館運営が可能となっている。

武豊春の音楽祭

本館が行ってきた音楽祭の概要として、第1回目は平成16年度（2005/3/10～13）に「武豊春の国際音楽祭」として実施した。地域の文化創造・交流の拠点として、文化創造プランの3つの目的を持つ事業として「イブリー・ギトリスヴァイオリンリサイタル」、「ウイーン東京アンサンブルコンサート」そして、「山下久美子コンサート」を開催した。会館オープニングの柿落しの意味合いもあり、現役で最高齢とされるヴァイオリニストの演奏と、ホールのキャパシティーに合ったアンサンブル演奏会が大変好評であった。

第2回目は平成18年度（2007/2/22～25）に「第2回武豊春の音楽祭」として実施され、第1弾として松尾葉子指揮、ソリストにピアノの菊池洋子を迎え名古屋フィルハーモニー交響楽団によるモーツァルトプログラム、第2弾は森山威男&板橋文夫スペシャルバンドコンサート、そし

て第3弾板橋文夫スペシャルバンド in 武豊中学校として、中学校のアウトリーチ事業も同時に実施した。

第3回目は平成20年度（2009/2/20～22）に「第3回武豊ビエンナーレ2008」として実施した。春を呼ぶクラシックとして、念願だったベートーヴェン第九交響曲を、角田鋼亮指揮中部フィルハーモニー交響楽団と、武豊第九合唱団を組織して実施した。ジャズの日として、ダニー・シュエッケンディック ピアノトリオ&植田日登美、森山威男トリオコンサート、山下洋輔ソロピアノコンサート、林家正蔵&エリック宮城のジャズ演奏などを実施した。

クラシックの日として、森本千絵&野村芳生ヴァイオリン&ギターデュオ、ブラスアンサンブル・ロゼコンサート、鏑木勇樹テノールコンサート、中部フィルハーモニー交響楽団コンサートを昼夜の部2回公演、中川智之古楽アンサンブルを実施した。

この年は、開館以来の夢であった地域住民で組織する一般参加合唱団によって、ベートーヴェン第九交響曲（合唱付）を実施することが出来たが、半年にわたる練習を通じ、大きな絆によって結ばれた200名の合唱団が予想以上の出来上がりで、鑑賞者はもちろん演奏した合唱団メンバーが、達成感を実感するコンサートとなった。

第4回目は平成22年度（2011/2/20～3/6）に「武豊春の音楽祭（武豊ビエンナーレ2010）」として実施し、期間前に音楽祭プレ企画として「綾戸智恵コンサート」が行われた。クラシックの日は、柳澤寿男指揮、ソリストにクラリネットの亀井良信を迎え名古屋フィルハーモニー交響楽団による演奏、ジャズの日には熱帯ジャズ楽団による演奏、そして市民合唱団による合唱構成「ぞうれっしゃがやってきた」他、有料無料公演の合計56団体の出演により実施され5,084人の入場者があった。

地域公共ホールが、このような形で長期間にわたり鑑賞事業を実施する例がなく、全国的にも貴重な事例である。この事業は、公共ホールの使命の一つとして地域の文化・芸術活動への貢献が求

められることと、若手演奏家から地域ホールが演奏家を育てて欲しいという希望がある中で、双方の要望が一致した事業であった。

知多半島春の音楽祭 2013

このような取り組みが知多半島全域で実施されるようになれば、身近に音楽芸術が溢れることとなり、少子高齢化や経済の低迷で自治体が疲弊し活力を失う中で、自治体文化行政の活性化に繋がる施策となることは間違いないと考えている。

最近では若手の演奏家が自らコンサートをマネジメントし、コンサートを開催することが増えている。また演奏の機会を求める意識が高まり、コンサート専用ホールにこだわらず会場を求めるようになっている。そのため、古民家やレストランなど洒落た建物で数十人入るスペースがあれば、来場者のニーズにあった演奏も行うようになっている。

5回目となる平成24年度の音楽祭は、当初の目的であった知多半島5市5町で開催できるよう企画を考えている。企画としては名称を「知多半島春の音楽祭」として、実施目的を「半島の自然環境を生かし、5市5町が連携して音楽鑑賞事業を実施することにより、一体的に情報発信を行い、地域の活性化を目指す」となっている。

地元では2005年の中部国際空港開港以来、知多半島観光圏の整備に向け行政と民間が一体となり取り組んでいるが、今回の音楽祭が文化と観光が連携し、地域の活性化に貢献が出来るよう成功させたい。

音楽祭事業の課題と新たな取り組み

愛知県西部に位置し、名古屋市の南に突き出した細長く緩やかな丘陵からなる知多半島を、文化と観光とのタイアップにより地域を活性化できればという発想で、今後の取り組みを展開したい。知多半島の観光は、1999年に知多半島の地域振興を目的に「知多ソフィア観光ネットワーク」が発足したが、知多半島の産官学民が連携し、人材を含め豊富な地域資源を生かした活動により、新たな価値を生み出すことを基本としている。

観光と文化の密接な関わりにより、地域活性化に相乗効果があることが認識されるようになっていくが、武豊町から始まった音楽祭が知多半島に広がり、さらに「知多半島国際音楽祭」を目指すことが夢である。国際空港があり、宿泊施設や観光名所があり条件は揃っている。現在までこれらの連携が必ずしもうまく機能していないところがあり、今回の音楽祭により地域、団体、それぞれの機関が連携することにより、創造的な地域が実現するよう期待したい。



第3回武豊ビエンナーレ
「武豊第九演奏会」 2009年2月



武豊町民会館「ゆめたろうプラザ」輝きホール